

令和5年度 学校評価

■ そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思わない
 ■ そう思わない
 ■ わからない

①いのちを大切にす心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

1 一人一人の児童生徒の尊重	2 道徳・心の教育の充実
学校は、一人一人の子どもを大切にす指導や対応ができていますか。	学校は、豊かな人間性を育む心の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）
<p>保護者</p> <p>児童</p> <p>教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>	<p>保護者</p> <p>教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
<p>考察：2つの項目とも保護者の【4】の割合が昨年度よりも増えている。これは、週1回の子ども理解朝会での情報共有をし、日々の子どもたちへの対応や声掛けを継続してきたことや、親子道徳などの取組の成果であると考えます。しかし、「一人一人の子どもを大切にす指導や対応」については、児童の【4】の割合が昨年、一昨年よりも減っていることは反省すべき点である。今後も、より一人一人の児童としっかりと関わる時間を確保し、『笑顔』でつながる若葉小学校をつくりあげていきたい。</p>	

②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

3 授業力向上	4 タブレット端末活用
先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。	子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。
<p>保護者</p> <p>児童</p> <p>教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>	<p>保護者</p> <p>児童</p> <p>教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
<p>考察：2つの項目とも保護者の【3】【4】を合わせた割合が増えている。5月に新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類に変更されたことから、児童の学習の様子を実際に見ることが増えたことや、学校だよりや学級通信などから児童の作品や学習内容を知る機会が多くなったことによるものと考えます。タブレットの活用の評価については、やや頭打ちの感があるが、今後も「職員も学びとる研修」の充実と、さらなる効果的なタブレット端末を活用した研修を積み重ねて、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていきたい。</p>	

③教員が子どもと向き合うための体制の整備

5 学校の支援体制	6 共生社会を担う人材の育成
学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。	学校が行っている「交流及び共同学習」等は、相互理解につながっていると思いますか。
<p>保護者</p> <p>教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>	<p>保護者</p> <p>児童</p> <p>教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
<p>考察：保護者の評価は2つとも【4】の割合と「わからない」の回答がやや改善した。教職員の「学校の支援体制」についての評価も、【4】の割合が増えた。これは、ケース会議などで児童の支援体制や支援の方法について、時間を見つけながらも定期的開催していた成果であると考えます。今後も、学校の支援体制や取組への理解をさらに浸透させていくために、様々な機会をとらえて発信し、家庭や地域に理解していただけるようにしていきたい。</p>	

④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

7 安全と事故防止	8 家庭や地域との連携協力
学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。	学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。
<p>保護者 児童 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>	<p>保護者 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
<p>考察：新型コロナウイルスが5類に引き下げられたことにより様々な行動の制限が緩和され、保護者や地域との交流も少しずつ元に戻ってきた。しかし、コロナ禍の中、しばらくの間連携が十分でなかったことや、PTAの組織が大きく変わる時期でもあったことから、手探りの部分もあって完全に元に戻った訳ではない。今後も安全面を含めて家庭・地域と連携・協力しながら、児童が安心して学校生活や教育活動を行えるような対応、環境づくりに努めていきたい。</p>	

⑤ 本校の教育

9 学校独自1	10 学校独自2
子どもたちは、進んであいさつをしていますか。	授業の中で、子どもたちが、友達の意見を聴いたり、自分の考えを伝えたりして学び合っていると思いますか。
<p>保護者 児童 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>	<p>保護者 児童 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
<p>考察：「あいさつ」については、昨年度と同様児童の評価が一番高かったが、教職員、児童、保護者とも【3】【4】の割合は昨年度とあまり変化がなかった。地域の方からは年度末になるにしたがってよくなっているように感じるとの評価をいただくが、さらに教職員からの声掛けやあいさつの意味を考え合うことで、あいさつの励行を進めていきたい。また、「学び合い」については、昨年度よりも活動の制限がなくなったことから、学習の中での対話の推進を行ってきた。今後さらに「学び合う環境づくり」に努めていきたい。</p>	

⑤ 本校の教育

11 学校独自3	12 学校独自4
学校は、花などの栽培活動を充実させ、自他の命を大切にしていく態度を育てることができていると思いますか。	子どもたちは、友だちとなかよくしていると思いますか。
<p>保護者 児童 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>	<p>保護者 児童 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
<p>考察：「自他の命を大切にしていける態度」については、保護者の【4】の評価が増えていた。担当者や樹木・緑化委員、そして全校でのVS活動など年間を通した活動の成果であるとする。今後、児童がさらに主体的に活動するような工夫を取り入れて進めていきたい。また、児童の多くは友達となかよくできていると回答し、保護者の多くも同じように感じている。今後も「なかよしタイム」や委員会企画による学年の枠を超えたイベントの充実などにより、縦と横のつながりを強くしていくことで、みんなが笑顔の若葉小学校をつくってきたい。</p>	

来年度の具体的な取組について

- 自他の生命の尊重や他者への思いやりの心を養うために、各学年の一人一鉢での活動の充実や野菜の栽培、樹木への理解を推進する学習等をさらに推進していく。
- 「子どもも教師も学びとる校内研修」として、今年度新たな研修体制を構築してきた。さらに児童自らが探究していく学びとなるように、職員も「学びが深まる授業づくり」に努めていく。その中でタブレット端末等のICT機器を効果的に活用していきたい。
- 支援を必要とする児童について共通理解をする場や教職員の専門性の向上のための研修を設け、組織的な対応になるよう家庭や関係機関とも連携しながら取り組んでいく。
- 児童一人一人と関わる時間の確保ために、担任を中心とした教育相談の充実等の工夫を行っていきたい。
- 学校での児童の活動の様子や職員の取組を保護者や地域により一層発信し、児童をまんなかに保護者や地域との連携を深めていく。

学校関係者評価

- 子どもたちの「おはようございます」「行ってきます」の笑顔での明るいあいさつ、元気のない子への子ども同士の声掛けなど「助け合い」「励まし合い」の姿が見られる。
- 昨年よりも今年、1学期よりも2学期と、子どもたちの成長した姿・行動に、先生と子どもとのコミュニケーションが図られていることを感じる。
- 花壇の草取りや夏場の水やり、あいさつ運動など、子どもたちの自発的な活動が頼もしく見られる。
- 学校と保護者の情報ツールである「学校だより」がこまめに発信されており、直近の学校の様子が伺える。